

月刊・一辺境

月刊・一辺境 5

発行元：水星
発行日：2026.3.20

Magazine for everyone who loves SUISEI Inc.

リニューアル復活！

BAR
やりこみ

新マスター・今庄湧希

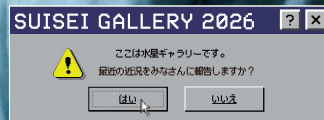
・定番連載・

マダム・モーハの
占い館
ゲスト：前田将吾

ゲスト：木村七音流

スナック
えなり

SUISEI
図書館



・巻頭特集・

ホテル開発とホテル現場が溶け合う水星のモノづくりを、
ホテル研修から紐解く。



ホテル開発とホテル現場が溶け合う水星のモノづくりを、 ホテル研修から紐解く。

私たち水星が世の中に提案する「宿泊体験」は、現場の一人ひとりの手によって形づくられています。現場で起きていること、ゲストの反応、運営の仕組みを直接知ること、全部署のメンバーが共通の基準を持ち、より精度の高い協力関係を築くための土台となるのが、水星に入社したメンバーが、配属先に関わらず最初に経験する「ホテル研修」。

今回は、昨年後半期に研修を経験したプロデュース事業部の木村さん・前田さん・山下さんと、同じく研修経験者の金井塚さんが、研修でどんな気づきを得て、それがどう今の業務に繋がっているのか、座談会形式で振り返りました。4名の会話を踏まえ、私たちがなぜホテル研修を行うのか、あなたなりの答えを見つけてみてください。

金井塚：まずは皆さんが、**いつ、どのホテルで、どのような内容の研修をされたのか**、簡単に教えてくださいいただけますか？

木村：2025 年 6 月に入社した直後、HOTEL SHE, OSAKA に 2 ヶ月半、その後、ホテル雲井に 3 ヶ月弱いました。雲井ではちょうどリニューアルオープンの時期だったので、開業プロジェクトに携わせてもらいました。

前田：僕は 2025 年 12 月に入社して、12 月は HOTEL SHE, KYOTO で 1 ヶ月、1 月は香林居で 1 ヶ月弱、最後に雲井に 1 ヶ月 1 週間ほどおりまして、3 月中旬に京都オフィスにきました。大阪以外の 3 施設をコンプリートさせていた感じがですね。

山下：僕は、HOTEL SHE, KYOTO に 1 ヶ月です。

金井塚：山下さんは前職でホテル開発の経験が
ありだと思うんですけど、**実際に現場に入っ
てみて、開発・設計側の目線から驚きやギャッ
プはありましたか？**

山下：何より、**かなりの部分がすべて自前・現
場で完結していること**に驚きました。清掃を自
社スタッフが回していること、自社のオペレ
ーティングシステムがあってそれをちゃんと現場
の人が回していることなど。

普通は、清掃は外注や派遣に任せる場合が多い
ですし、現場用オペレーティングシステムはプ
ログラマーでないとはいじれないので、現場から
「小回り利かないな」みたいな声もよく聞きます。
入る前は、大手チェーンの一律システムを
使うか、そうでなければアナログの印象があっ
たのですが、オペレーティングシステムレベル
のものを現場スタッフが自前で作っているところ
がすごく新鮮でした。運営者が作っているから、
細かいルールやチェック項目の変更も、必要
な時に誰でもすぐにはできる。

金井塚：確かに、コスト削減ということもあり
ますが、本質的に、水星で提供したい体験や世界
観に合わせてオーダーメイドで自前システム
を使ってオペレーションに還元していく強み
が、うちにはありますよね。

木村：自社システムの観点でいうと、予約管
理から清掃管理、ルームマネジメント、お金周
りまで、**あらゆることが 1 つにまとまっている
ので、1 人で全貌が把握しやすいんです**。逆に
いうと、**ホテル現場スタッフのやる範囲がめ
ちゃくちゃ広い水星だからこそ、この自社シ
ステムが生きてるんだろうなとも思います**。



あと、ホテル雲井に行った時にすごく役に立っ
たのが、基本的に HOTEL SHE, のシステムを
ベースに温泉や食事などの機能を追加して雲井
仕様にカスタマイズすれば、そのまま使えたこ
とです。今後も拠点が増えた時でも、ベースの

システムは同じままローコストで移行できるの
はメリットが大きいと思います。

金井塚：木村さんはホテル雲井の研修中は具体
的にどういうことをされていたのですか？

木村：**現場の工数削減のための施策**を色々や
りました。例えば、エアコンなど故障が起こりや
すい備品の故障時マニュアルとフローの整備で
す。故障時の診断フローを作り、この場合は電
話一本かければ定額で交換してくれるという業
者を取り付けて、仕様書のフォーマットを整え
ました。



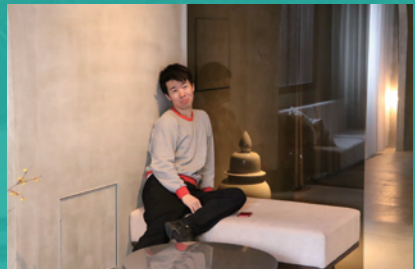
山下：さすが。普通は毎回ゼロベースから普通にネット調べて見積もり取って...となりがちです。木村さんの前職の設計事務所ではそうした設備系の知識を研修で身につける機会などがあったのでしょうか？

木村：研修は特になくて、ひたすら実際の業務の中でいろんな工務店とやりとりしたり、現場を見たりする中で、設備系の知識も業者の相場感も、自ずと身につけてきた感じですね。



金井塚：HOTEL SHE、も香林居も雲井も通られた前田さんの、現場でのミッションは何でしたか？

前田：全ての施設で共通して「**お客さんのことを知る**」、一言でいうとそれだけです。ただ、その中で、違う施設でも共通する課題に気づきました。というのは、**水星は施設ごとに濃い世界観でブランドイメージを作っているの、ターゲットをすごく絞って集客していると思われることが多いのですが、実際は国籍も年齢もとても幅広く来てくださっているんですね**。ホテルの世界観をしっかり尖らせていく上で、ターゲットはすごく大事です。とはいえ、ホテルって全世界の全世代の老若男女の方々が OTA や SNS を見て来てくださるわけじゃないですか。という時に、顧客全体の割合や各層の満足度などについてたくさん考えて話し合っ、研修レポートとしてまとめました。



金井塚：分析結果で特に印象的だったことなど、詳しく聞きたいです。



前田：例えば HOTEL SHE, KYOTO では、働き始める前は「20〜30 代の若い方が宿泊者の中心かな」と思っていたんですが、実際のところ、平日は京都駅を利用されるビジネスパーソンも多く来てくださっているんですね。僕の実体験としても、研修中に接客をしていて印象的だったのが、**ビジネス利用のサラリーマンのおじ様たちがアイスを食べている姿がなんだか幸せそうだなと思って、こちらも幸せな気持ちになりました（笑）**。旅行で来ている人って旅自体がすでに非日常だけど、ビジネス利用の方たちにとっては、出張中のホテルだけが唯一のオアシスなのかもしれないなと思ったら、なんか嬉しいじゃないですか。というわけで、「**水星のホテルは世界観を尖らせてつも、決して門戸を狭めているわけではなく、全てのお客さまに開かれているんだよ**」ということがもっと伝わるようなサイトを作ろうか、という案が生まれて、実際に今そのプロジェクトが動いています。

金井塚：実際に皆さんがホテルの現場に入ってみて初めてわかったことや驚いたことは何ですか？

木村：僕が HOTEL SHE, OSAKA にいた時に驚いたのは、接客が想像以上にカジュアルだったことです。アルバイトさん含め、友達的な距離感にうまく滑り込むのがうまい人が多くて、「おっすおっす」みたいな感じで接客する時もあって最初びっくりしたんですけど、よく見ていたら相手をよく見て使い分けていることが分かりました。カジュアルな接客を喜んでくれる人にはおっすの距離感でいて、フォーマルな接客をした方がいい人にはちゃんとする。**「見ると現場スタッフの「個人の裁量」に委ねられているように見えるのですが、画一的なマニュアルを超え**

て、アルバイトさんを含め研修制度や育成の仕組みが整えられているんだなと感じました。



金井塚：そこが HOTEL SHE, OSAKA 独自の持ち味で、一朝一夕にできるものではないですね。ちなみに木村さんもゲストとフランクなやりとりをして仲良くなる経験などはできました？（笑）

木村：僕は...「こんにちは〜」ぐらいですね。金井塚さんも多分同じくでしたが（笑）。

山下：僕がいた HOTEL SHE, KYOTO は、ホテル+αの一芸がもはやプロレベルの人が多く、だからポップアップや展示への力の入れようやクオリティもすごくて驚きました。現場に立っているメンバーにタレント性がある比率がすごく高く、かつホテルの現場にその人たちのポテンシャルが活きる場がたくさんあって、それがしっかり売上にもつながっている。これは他のホテルにはない強みだなと思いました。



前田：良いところはお二人がおしゃった通りで全同意なので、僕はあえて、ホテルで研修して衝撃を受けたカルチャーショックについてお話ししようかと思います。ホテルの世界ではきっと当たり前のことなのですが、「自分がやってしまったミス、次の番の人が謝らないといけない」逆に「前の番の人のミスを、自分が謝らないといけない」ということが、これまでで**「自分がやったことは自分が謝る」のが常識だと思って生きてきた僕にとっては、なかなかの衝**

撃でした。ある意味、「自分という境界がない」というか、あくまで「ホテルという一つの箱」の中でぐるぐる人が回ってるんだな、と。けど逆に、日々の業務の中で何かトラブルが起きても、すごいスピード感で次々にそのトラブルが改善されていくのを見て、ホテルの一員として「**みんなでこのホテル守っているんだ！**」という連帯感、覚悟、気合いみたいなものもすごく感じられて素敵だと思いました。



金井塚：現場のみんな、当事者意識がすごい高くて、常に顧客の方を向いてるって感じですね。

木村：カルチャーショックでいうと、マルチタスクもでした。

山下：あとは、アルバイトのレベルもめちゃくちゃ高い。ほぼ社員と同じことをできるレベルの人がかなりいて。

金井塚：僕もよくホテルの採用候補者さんと面談する時に、「**マルチタスクだからホテル運営全体を学べますよ」「現場の裁量が大きいので上流の企画とか立てることもできますよ**」と言っているのですが、改めて実感しました。

金井塚：ホテルの現場での経験を、今のプロデュースでの業務にどう活かしているかという話について伺えたらと思います。

前田：僕は、先ほどお話ししたようなマーケティング的な視点で、ホテルと直接連携した仕事はたくさんさせてもらっています。現場のリアルや顧客のインサイトを直に見れたことが、今のマーケティングに延長線上的に活かせていると思っています。「**自分の仕事の先に人がいる**」っていう事実をちゃんと分かったことが、僕にとって一番大きかったと思います。前職だと、代理店という立場でもあったので、実際に自分

たちのサービスを利用してくださる方がどんな風に生きているのか、現場の人が何を考え何に悩んでいるかは、今思うとそこまで考えなくても済んでしまっていた気がします。でも、今はそういうわけにはいかない。なんか、**人間らしくなれてよかったな**と思いました。



木村：僕は、今担当している新しいホテルの立ち上げの中で、研修があったからこそ掘めた肌感が活きているなと感じています。具体的な空間設計・サービス設計の部分で、「ここスーツケースぶつけられて壊れやすそうだな」「こういう部分って意外とお客さん見てる / 見てないな」「ここはホコリたまりやすいな」と自然に気付けるんです。**今は設計の人とやりとりする中で、現場視点でフィードバックできることも**あります。これもやっぱり、**清掃目線・フロント目線・カフェ目線など、全方面からの目線で総合的に見える**んですよ。すごく大きな財産だなと思っています。



金井塚：前職は設計事務所で企画設計をずっとやられてましたが、やっぱり視点や解像度が変わりましたか？

木村：全く違いますね。前職で旅館の設計をやっていたことがあるんですけど、当時も気をつけてはいたものの、やっぱり現場に立ってみないと気づかなかった視点はあるなと思います。

山下：素晴らしい。僕が今検討している案件でも、例えばSHE, KYOTOが、30室から50室にジャンプするとどうなるのか、みたいな形でリアルに考えられるんです。資料を分析したら数字上では計算は出来るし、前職でも運営の人たちにヒアリングしながら作っていたのですが、**そういう「理論上は」の感覚だったことが、リアルな肌感として数字を出せる**。HOTEL SHE, KYOTOのスタッフたちも現場に立ちながら企画もやっている人が多いと思いますが、現場でゲストのリアリティーを前にして、企画する人が現場に立つ大切さを実感しましたね。



金井塚：逆にホテルへ還元できそうなこと、ホテル事業部と一緒にこういうことをやっていきたいといったことを、最後にプレスト的にお話し頂けますか。



木村：各施設そろそろ様々な設備を変える必要が出てくるフェーズになってきています。外部業者を入れるのか社内で内製の仕組みを作るのかなど、その体制づくりやメンテナンス周りはぜひサポートできればと思って、すでにビルメンテナンス者と打ち合わせなどもしています。

金井塚：開業時点だけでなく、10年後、20年後にどうなっていくか、ホテルプロデュースする上でも大事な視点ですよ。

前田：やはり閑散期と繁忙期の差をいかに埋めるかということは、より考えていかなければと思います。また、データを分析していて、水星のホテルは新規のお客様がどんどん来てくださるのが強みだと分かりました。逆にいうとリピーターにはもっと伸び代があると思うので、一度来ていただいた方々にもう一度来たいと思っていただけるような取り組みも一緒にやっていきたいです。



山下：僕は、建築のことをある程度わかっている人間が現場を経験したことを活かして、**企画開発・建築と現場・運営をよりシームレスにつなぐ存在**であろうと思っています。一般的なウォーターフォール型のホテル開発では、プロジェクトの終盤に運営チームから「使いづらから変更したい」という要望が出て、技術的・予算的に対応が難しいというずれ違いがありますがだと思います。でも、**水星のモノづくりはアジャイル型で進むので、かなり初期の企画段階から支配人と一緒にチーム全員でディスカッションを重ねています**。僕自身、ホテル研修で

現場の運営目線やお客さまの目線を肌感覚として学ぶことができたことで、企画の場でも議論をスムーズに進めることができるようになった。問題が起きてから対処するのではなく、先回りして解決していきたいですね。



金井塚：前田さんも、最後に言い残したことはありませんか？

前田：僕は幸運にも研修で**全施設巡ることができたことで、会社も仕事も一層好きになりました**。水星は社員それぞれがいろんな場所にいるので直接話せる機会は少ないですが、僕は入社数ヶ月の間に話したことがない人がいないくらい状態で、シンプルに友達がたくさんできたような感覚です。これから研修される皆さんもぜひいろんな施設に行ってほしいです。

山下：この間の同期研修もすごく盛り上がりましたよね。

金井塚：本日はありがとうございました。引き続き、運営と開発の連携を深めながら、最高の体験を作るためのワンチームとして、これからもやって参りましょう！



BAR

やり込み

今庄：実可子さん、いらっしゃいませ。バー開店以来、CHILLNN からのお客様は初めてなので楽しみにしていました。

小林：素敵な雰囲気のあるバーですね。今庄マスターとお話できるのが楽しみです。前回の高見さんのお話も興味深くて。私は高見さんほどやり込みエピソードがないので緊張しています。

今庄：実可さんも、普段からすごくアクティブにいろんなことをされているイメージがあります。お話を伺う前に、まずはお飲みものを。実可子さんといえば、お茶のイメージですね。お茶も豊富に取り揃えております。

小林：バーなのにお茶もあるの、嬉しいですね…！高見さんが頼まれていた高山烏龍茶も気になるのですが…

今庄：では、ちょうど新茶の季節なので、烏龍茶の新茶「春茶」をお淹れしましょう。どうぞ。

小林：いただきます。…ほんのり甘みがあって香りも華やかでとっても美味しいですね。烏龍茶にも新茶があるの、初めて知りました！趣味に没頭したい時や仕事から帰宅した後にお茶を淹れるのが日課なので、家でも飲んでみます。最近、ノンカフェインのフレーバー付きルイボ스티ーの茶葉を買って。ティーバッグではないので少し淹れる手間はあるんですが、あまりにも美味しくて。お茶を淹れる習慣ができてからQOL が劇的に上がった気がします。それまでは、ひたすら水を飲んでいたので（笑）

水星タウンの某所、月に一夜だけオープンするバーがある。「BAR やり込み」、ここは、何かに魂を燃やし、どこまでもマニアックに世界を深掘りする「やり込み人」たちが夜な夜な集う場所。今庄マスターが差し出す極上の一杯と共に、今宵のゲストのやり込みを心ゆくまで深掘りしていこう。

今庄：ひたすら水、というのもミニマルで実可子さんらしいですけど、お茶で生活の解像度が上がるのは素晴らしいですね。お茶を好きになった具体的なきっかけはあるんですか？

小林：私の友人がやっているお茶系プロジェクト「茶酔」の影響が大きいです。質の良い台湾茶を何煎もたくさん飲んでいて、体がじんわりとポカポカ温まってきて、まるでお酒を飲んだときのよう陽気で楽しい気分になるんですよ。それを「お茶で酔う」と提唱した人がいて。飲み会でお酒を飲むと、お酒が飲めない人はどうしても置いてけぼりになって楽しめない、だったら「お茶が良いじゃん」、という発想から始まったそうです。その「お茶で酔う」という概念を教えてもらってから、私も台湾茶の魅力に引き込まれていきました。もともと喫茶店巡りが好きで、コーヒーやお茶を日常的に飲んでいたのもあって、すごく自然な流れでハマっていきました。

今庄：体に優しくて、お酒を飲めない人も含めてみんなでハッピーになれる。それってすごく素敵ですね。お茶のやり込み具合としては、今どのあたりまで深く潜っているんですか？お茶って身近にはあるものですが、こだわり出せばどこまでもこだわれそうです。

小林：正直なところ、自分ではお茶をやり込めていない…というか、お茶は沼が深すぎるので、あえて沼の入り口でブレーキをかけている感じです。以前、中国のジャスミンティーの新茶をいただいたんですが、手摘みの茶葉に、これまた手摘みした咲きたてのジャスミンの花を被せて香りに移す、

という繊細な工程を踏んでいて、その空間がジャスミンの香りでいっぱいになるらしいんです。そういう手作業の極限みたいな職人技やそこまで取材に行く人の熱量を知ると、私はまだまだ入り口を覗いているだけだなと。

今庄：そんな製法があるんですね。お茶専門店に行かれたりもするんですか？

小林：たまに行きます。京都にある「7T+(セブティープラス)」というお店は最近見つけてちょっと良いと思ったお店です。名前だけ聞くと可愛らしいアイス屋さんみたいなんですけど、実はすごく本格的なお茶屋さんで、店内に入ると、実験用のシャーレのようなガラス容器に入った数十種類の茶葉がずらーと並んでいて、そこから好きな香りや葉を選べるんです。先日いただいた冷たいお抹茶が本当に美味しくて…店内に座れる席が2席ほどしかないのがネックなんですけど（笑）
お店に通うのが好きなので、休日に喫茶店

を2軒ほどハシゴしたりもしています。ただ最近、ちょっとカフェインに弱くなってしまって、1日に2杯飲むと胃がやられることもあるんですけどね（笑）

今庄：「7T+」めっちゃいいですね、行きたいリストに追加です…！他には、どんな「やり込み」をされてるのですか？

小林：散らかっているんですが…趣味というか、小さい頃からずっと好きなのは小説ですね。私は図書館派で、今でもよく図書館で本を借りて読んでいます。あとは、コーヒー、バイク、いけばな、日本庭園巡り、それから鴨川が大好きなので、月1回くらい鴨川でパンを食べて過ごしたり…最近はお庭の写真を綺麗に撮りたくてカメラを買ったので、YouTube でカメラの使い方の動画を見たりしています。カメラを買ったことは、なんだか気恥ずかしくて社内では隠しているんですけどね（笑）みんな持っているけど私自身はそんなに詳しくないので、「カメラが趣味です」とも言いづらいレベルなんですけど。でも、お庭を

ゲスト
小林
実可子

マスター
今庄
湧希

本日の一杯



烏龍茶の新茶
「春茶」

撮るという明確な目的があるので、毎週お出かけをして練習しています。カメラもまた奥が深くて難しいですね。

今庄：素敵な趣味がたくさん…どれもやりこみ要素がありそうなのですが、やりこみ度をコントロールしていたりするのですか？

小林：やり込もうと思ったら本当にキリがないですから。私、結構ビビリなので、深入りしすぎると生活が破綻する予感がするお茶やカメラには、意図的にブレーキをかけているんです。逆に、もう抗えないなと諦めてどっぷり浸かっているのがコーヒーと日本庭園ですね。

今庄：日本庭園は、そんなに根深い沼なんですか。

小林：完全に沼にはまってしまいましたね（笑）旅行に行く際も、目的地を選ぶ基準に

「そこに良いお庭があるか」が入るくらいで、岩手、岡山、鹿児島、沖縄までお庭を見に足を運びました。去年は、一般参加枠としてお金を払って「日本庭園学会」のフィールドワークにも参加したんです。

今庄：学会のフィールドワークに一般参加！それはもう、立派なやり込み人ですよ。

小林：専門家の方々のディープな解説を聞きながら庭を巡るのが、本当に面白くて。日本庭園って、石や木、水といった「自然のもの」を扱いながら、人間がコントロールできる範囲で美しさを表現しようとしすよね。でも、生き物だから経年変化もあるし、木は勝手に繁りすぎてしまう。その「ままならなさ」と「人間のコントロール」のせめぎ合いが、私たちの仕事とも関わる建築や設計と通じる部分がある気がして楽しいんです。建築も環境や住む人という「ままならないもの」を設計に落とし込みますから、庭と実は親和性が高い。

今庄：なるほど。庭を好きになった最初のきっかけは何だったんですか？

小林：最初は、友人が日本庭園を好きだったことに影響されて、見始めました。でもある日福岡で見たお庭が本当に素晴らしくて…ちょっとポエムっぽくなってしまいうんですが、石組と木擦れの音に囲まれた時に「あ、これが生きるってことか」と、お庭の有り様に教えられるような衝撃を受けたんです。それが原体験ですね。もう1つは、学生時代に1ヶ月だけ京都に住んでいた頃、暇だったのでたまたま「私設図書館」という場所に入ったんです。そこでなんとなく手に取った『日本の10大庭園』という本がすごく面白くて。本に書かれている内容を頭に入れて京都の庭を巡って見たら、「あ、本に書いてあったのはこのことか！」と、知識とお庭の実際の造形が一致する知的興奮もあって。その2つのきっかけかなあと 생각합니다。

今庄：直感的な感性での衝撃と、本から得た知識が噛み合う楽しさ、その両軸がある

んですね。実可予さんは目標を立ててゴリゴリ頑張るというより、感性やフットワークの軽さで世界を広げていくタイプなんですか？

小林：そうですね、あまり目標を設定して計画的に進めるのは得意ではなくて。好奇心のままにフットワーク軽く「気になるからとりあえず行ってみよう」と足を運び、帰りの電車でスマホを使って深く調べる、というような感覚で動いています。ちなみに、今庄マスターは最近何にやり込まれているのですか？

今庄：私は最近「洗車」を猛烈にやり込んでいます。洗車のサブスクに入っていて、週に2,3回は行ってますね（笑）車ってパネルが組み合わさってできているので、その隙間やタイヤ周りの細かい部分に埃が溜まるんです。そこに洗車用のものすごく優しくて柔らかい専用ブラシを差し込んで、汚れがフワッと浮かび上がって綺麗に流れていくのを見るのが、何よりの癒やしであり快感なんです。

小林：週3回は完全にやり込みですね（笑）車という”所有しているもの”に対する1つの愛の形なのでしょうね。

今庄：実可予さんは、あまり”物”に対する所有欲はないですか？

小林：物に対する執着はあまりないですね。本も図書館で借りますし、コレクションするとしても、旅先のステッカーやポストカードを記念に少し買うくらいです。どちらかというと「記憶派」で、自分がその体験の瞬間に何を感じたかを残しておきたいタイプです。だから3年くらい前から、毎月その月の振り返りをテキストに残しています。どこに行って何を感じたか、今月はどんな自炊をしたかなど簡単なことですが、会社の昼休みや夜にスマホで書き留めていて、それを振り返ると、「先月こんなことで悩んでいたけど今は解決しているな」とか、「意外と色々動いているな」と実感できて、自己肯定感が上がるのでおすすめです。

BAR やりこみ



▲ある日のコーヒー

今庄：素晴らしいですね。高見さんの時も思いましたが、やり込んでいる人は何かしらのツールで「振り返れる形」として記録をストックしている人が多い印象です。私はすぐに忘れがちなので、最近とはにかく写真を撮ったり、高見さんのDiscordの話を聞いてからはNotionにURLや気になった情報をひたすら蓄積するようにしました。それから、みんな本当にお店の名前や固有名詞をよく覚えていますよね。私はGoogleマップに貯めてはいるのですが、なかなか頭には入ってないです。

小林：私も、お庭の名前やブランド名、お茶の名前など、「ラベルや記号」としての固有名詞を覚えるのは本当に苦手なんです。ラベル自体に意味や理屈がないと、脳から滑り落ちてしまって…「あの景色は本当に素晴らしかったけど、これ何ていうお寺のお庭だったっけ？」と、後から忘れてしまうことはよくあります（笑）だからこそ、自分で現地に足を運んで、実際に体験して、その「文脈」と一緒に記憶に焼き付ける。私のやり込みはコレクション派ではなく、完全に現地体験派ですね。月1回の振り返

◀日本庭園学会で訪れた醍醐寺

▲ある日のお茶



りでその記憶を自分の中に繋ぎ止めるスタイルです。
今庄：これから新たにやり込みたいことはありますか？

小林：そうですね…自分で「これを極めるぞ！」と決めて進める能動的なやり込みも素晴らしいですが、私は誰かに誘われたり、面白いチャンスが降ってきた時にパッと飛びついたら、いつの間にか深みにハマっていた、というような「受動的なやり込み」が起きる自分でありたいなと思っています。周りに各界隈のオタクや自分の世界を持ってる人が多いので、素晴らしいお友達に恵まれて感謝しかありません。彼らの勧めに感謝しつつ、フットワーク軽くいたいですね。

こないだも金井塚さんと七音流さんにお誘いいただいて、環境音を使って作曲をされているサウンドアーティストの方の体験プログラムに参加させてもらったんですが、それもすごく面白かったです。ヘッドホンをつけて集音マイクを持って外を歩くんですけど、普段聞き取れないレベルの音が聞こえるようになることで、世界がガラリと変わるんです。ちょっとした小さな滝の音がナイアガラのような轟音で聞こえたり、その辺を飛んでいる蜂の羽音がすごい存在感を持って迫ってきたりして。これ、ホテルのお土産として、ポストカードにQRコードを載せて、それを読み取ると宿の周りの自然の音がSoundCloudなどで聴ける、みたいなのがあったら面白いよねと話していました。

今庄：めちゃくちゃ面白そうですね。「受動的なやり込み」、すごく素敵な言葉です。お茶もバイクも日本庭園も、周囲の魅力的なお友達のお誘いに実可予さんがフットワーク軽く飛び乗ったからこそ、新しい世界が広がっていったわけでもんね。小林さんは、ご友人が多いイメージがあります。

小林：私の場合、知人と友人の間ぐらいの人も友人って呼んじゃってる節があるかもしれません(笑)それで思い出したのですが、



▲移動する金井塚さんと七音流さん



▲ごらん若鮎、これが川だよ

「仲良し」の定義って人によって全然違うなと思っていて、最近それについて考えていました。今庄さんはどういう状態の人を「仲良し」と呼びますか？

今庄：急に深い質問…！（笑）それ、実は私も最近すごく悩んでいるというか、迷っていて。私の仲良しは数か月単位で定期的に会って話す・飲みに行くぐらいが距離感ですね。それでいうと、仲良かった友人が割と東京に行っちゃったんですね。私は関西に帰ってきちゃったわけですが、LINE全然送らないし見てないタイプなんで、普段のリアル接点がないと縁が切れてしまって仲良しが減っちゃいました。そう思ったらこないだ友達に「お前が集まるうって声掛けへんから全然皆で集まってないぞ」っ

て言われました。自分が声かけて人集める側の人間だということに気付かされて、仲良しリバイバルをしようと思ってます。小林：確かにそれはありますね。東京にいた頃は、年数回会うような人も仲良しと呼んでたんですけど、近いコミュニティが変わると関係性も変わりますし、最近はその定義も更新したいなと思って模索中です。でも、今お話して思ったのですが、仲良しって、定義づけようとしらない方が良いのかもしれないですね。

…あら、もうこんな時間！

今庄：こうした人間関係の深掘りも、いつかこのバーのテーマとしてじっくり扱ってみたいですね。今回は実可予さんの「やり込みの文脈」をたくさん聞くことができて、私自身のやり込みレベルも大きく上がった気がします。水星のメンバーの多様なやり込み知見をこうして集めて、社内にどんどん還元していきたいですね。

小林：今庄マスターに溜まったやり込みの知見が還元されて、水星/CHILNNみんなのやり込み力がさらに上がると、すごく面白いプロジェクトになりそうですね。

今庄：マスター冥利に尽きます、精一杯努めます。それでは最後に、次回のゲストを実可予さんから指名していただきたいのですが、お話を聞いてみたい方はいますか？

小林：前田さん！極める力が高そうなので(笑)

今庄：またものすごく濃いやり込みが見られそうですね。では、次回は前田さんをお招きして、じっくり掘り下げてみたいと思います。本日はありがとうございました！

小林 実可予のやり込みキーワード

- # 受動的なやりこみ
- # 現地体験派
- # やりこみブレイキ
- # やりこみは記憶派

E

水星図書館へようこそ。

水星で働く私たちが日々の仕事や旅、暮らしの中で出会った本を紹介する選書コーナー。
ビジネス書や小説、エッセイ、アートブックまで、ジャンル問わず「いま誰かに勧めたい一冊」
をピックアップ。あなたの心に、新しい景色を届ける本と出会えますように。

本日のゲスト

木村 由佳さん

1.

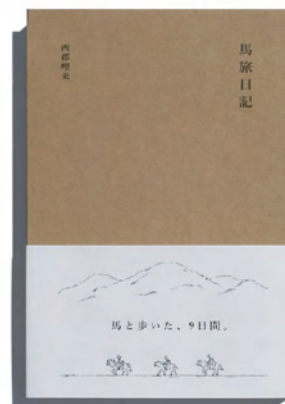


MAGIC HOUR

嶋田里英

「あ、こんな日のこの場所見たことある」と思いつつページを進め、見終わるといつも見ている日常でもふと立ち止まりたくなってしまうイラスト作品集です。東京駅を見ながら、影いま綺麗だな~と思うようになりました。

2.

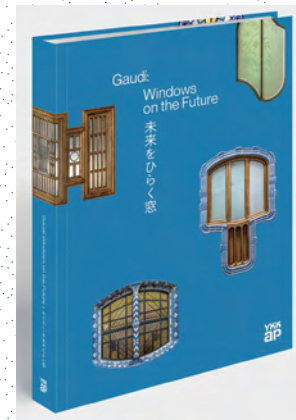


馬旅日記

西郡哩来

自分にもあった習い事の区切りを、20歳でこんなふう書き起こせる人がいるのかとまず驚き。フォトブックを見せていただき、悩みごちらだけ購入したのですがやっぱり一緒にほしいかもなと気になっています。

3.



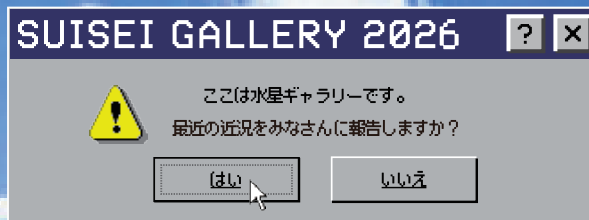
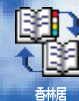
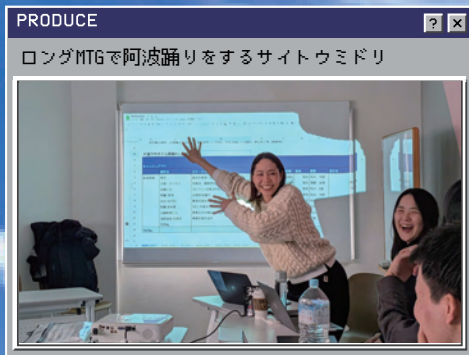
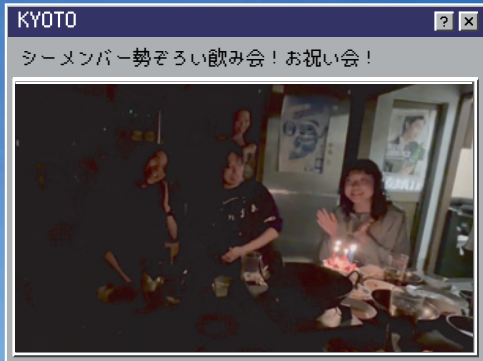
ガウディ：未来をひらく窓

編集：YKK AP株式会社

今年はガウディ没後 100 年を記念して展示会やイベントが数多く開催されています。その 1 つ、日本で開催される、ガウディの窓の魅力を伝える展覧会のプロジェクト特別書籍です！永田さんにプレゼントしようかな。

欲しいです。私ごとながら、
3 月末に長男が産まれまして、
「窓」と命名をさせていただきました。
是非とも未来をひらかせていただければと。





Suisei Friends

profile

-わたしの基本情報-

わたしの名前は **水野 泰輔** 。

1993 年 9 月 9 日生まれの 32 歳。

血液型は A 型でみんなから **水野さん** って呼ばれてるよ。休みの日は **散歩 & 読書** (カズエは行き過ぎて禁止側が出ました...) をしてるかな。普段は **プロデュースのおしごと色々** のお仕事をしていますよ。こんな私の性格を一言で言うと **まっすぐ** かな。よろしくね★



趣味

カフェ巡り
(スタイリッシュより、くつろげる系)

特技

散歩中に偶然いける場所
人に出会う

出身地

愛知県一宮市
(CoCo壱・コメダ発祥の地)

配属先

プロデュース事業部

マイブーム

髪の毛を伸ばす

My Favorites

-わたしの好きなもの-

食べもの

最近食べてないもの
(好き嫌いなし)

場所

ヘルシンキ

ホテル

セイナツツァロの村役場
(フィンランド)

音楽

スピッツ・ブルーハーツ

本・雑誌

水源 (アインランド)
はじまりはクロマニヨン (妻)
ほか色々

映画

レオン (とびきり)
LIFE、ほか色々

色

水色、橙色

お店

Sinisen Huvilan Kahvila
(ヘルシンキ)

有名人

甲本ヒロト



MY ここに好きなテーマを入れてね

最高だった世界のレンタカー旅

BEST3

No.1

アイスランド一周 (地球って感じ)

No.2

プーラ / クロアチア〜ヴェネチア / イタリア (地中海は楽園)

No.3

トレバベガ / スペイン 〜 ニース / フランス (ドラクエの世界)

MY fave talk

★わたしの推しトーフ★

推しの名前は？

(モノ・人・ブランドなんでも！)
建築！

推しの好きなところは？

深すぎて逆に好きって言いにくい

推しのセールスポイントは？

永遠に勉強できる、実質無料 (教材はそこかしこに)。

Questions

- じぶんについて答えてね -

今いちばん欲しいもの

たくましさと大人の余裕、大きい家

今いちばん行きたい場所

ニューヨーク (行ったことない)

今いちばん泊まりたいホテル

ザ カーライル ア ローズウッド ホテル
(映画で見た)

今いちばんチャレンジしたいこと

水星らしいホテルの1階を考える
(事業性と公共性どちらも担保した場所)

3 ねん後の夢

建築を広く考えられる人を増やす
(場を持つ?)

10 ねん後の夢

自分や水星みたいな組織がいっぱいある状況を作る

最近の旅行の思い出

スペインでハネムーン中自損事故。
保険でフルカバー！保険大事。

学生時代の旅行の思い出

クロアチアの崖から海へダイブしたら、
高所恐怖症になった

IF...!?

- タイムトラベルできるなら
いつの時代に行く? -

百年前くらい (祖父母の祖父母を見る)

- あなたならどうする!? -

- なんでもひとつ能力を
持てるとしたらなに? -

若返りつつ分身
(パン屋とか医者とか色々やってみたい)

- 架空のキャラクターを
現実世界に呼ぶなら誰? -

どらえもん (アイテム: 地平線テープ)



Suisei Friends

profile

-わたしの基本情報-

わたしの名前は 鈴木 淳平 。

1994 年 9 月 1 日生まれの 31 歳。

血液型は O 型でみんなから JP って呼ばれてるよ。休みの日は パンを食べているをしてるかな。普段は SHE, でホテル運営のお仕事をしているよ。こんな私の性格を一言で言うと言うてどうにかなるっしょかな。よろしくね★



趣味

妻のわがままに応えること

特技

寝る速さ

出身地

宮城県仙台市

マイブーム

器集め

配属先

SHE,

My Favorites

-わたしの好きなもの-

食べもの

海苔

場所

離島

ホテル

Hotorinite

音楽

Apex Twin

本・雑誌

伊坂幸太郎

映画

君の名前で僕を呼んで

色

緑

お店

mood(大阪の花屋)

有名人

長澤まさみ
(大学時代カフェで接客してからレジェンドです)



MY ここに好きなテーマを入れてね

パン屋

BEST 3

No.1

kurs

No.2

Boulangerie Parigot

No.3

まるき製パン所

MY fave talk

★わたしの推しトーク★

推しの名前は？
(モノ・人・ブランドなんでも！)
長澤まさみ

推しの好きなところは？
笑顔

推しのセールスポイントは？
笑顔

Questions

- じぶんについて答えてね -

今いちばん欲しいもの

洗濯機

今いちばん行きたい場所

スリランカ

今いちばん泊まりたいホテル

amaya(インド)

今いちばんチャレンジしたいこと

タンデムでしまなみ海道横断

3 ねん後の夢

夫婦円満

10 ねん後の夢

夫婦円満

最近の旅行の思い出

慶良間諸島でダイビング

学生時代の旅行の思い出

タイで現地人と間違われてゴミ捨て手伝われたこと

IF...!?

- タイムトラベルできるなら
いつの時代に行く？ -

1980年代

- あなたならどうする！？ -

- なんでもしとつ能力を
持てるとしたらなに？ -

- 架空のキャラフターを
現実世界に呼ぶなら誰？ -

Ted

